

あいさい通信

発行：あいさいボランティアガイドの会 編集：若山

愛西市森川町井桁西 27 愛西市観光協会内

電話：0567-55-9993

愛西市の桜



専随寺「赤芽の白山桜」

4月といえば桜、朝日新聞（2月21日曜日版）に「あなたの好きな桜ソング」ランキングが掲載されていました。上位8曲は「①さくら・森山直太郎（2003年）」「②桜坂・福山雅治（2000年）」「③さくらさくら・日本古謡」「④桜・コブクロ（2005年）」「⑤夜桜お七・坂本冬美（1994年）」「⑥SAKURA・いきものがかり（2006年）」「⑦さくら・ケツメイシ（2005年）」「⑧同期の桜・戦時歌謡」でした。これらの歌詞やメロディーを思い出す

と、ヒットした頃の記憶が蘇るのではないのでしょうか？ 4月は入学、就職、そして、出逢いと別れの季節、花見の宴、そして、その風景にある桜、その甘い香り、入学式や卒業式での母校の桜、入社後に行った花見会場での夜桜とお酒の記憶はなぜか鮮明に覚えているものです。また、桜は、開花、三分咲き、五分咲き、満開、散り始めと日ごとに楽しめることも魅力で、ある年、どこかで桜吹雪の中を歩いた情景を思い出します。

愛西市の桜名所として立田町の船頭平閘門などが知られていますが、それ以外にも、市内の学校、神社仏閣、小公園などに桜の樹や並木がたくさんあります。その内、森川町にある龍石山専随寺の「赤芽の白山桜」は銘木です。珍しい品種で赤い芽が白い花と一緒に開花し、逆光で見ると紅白のコントラストがとても美しいです。ただし、ソメイヨシノと花期がずれるため開花日に注意が必要です。尾張初代藩主徳川義直お手植えという伝承も残る樹齢約四百年の大木で、以前は愛知県の天然記念物でしたが、1959（昭和34）年の伊勢湾台風により倒木して指定解除されました。その後、根元から芽吹いた若芽が立派に成長し、最近では昔と変わらない美しい花を咲かせています。なお、今年は**4月4日（土）に愛西市商工会主催の桜まつり**が船頭平閘門（立田会場）、鵜戸川桜並木（八開会場）で開催、また、古瀬町の相ノ川桜並木では、**3月28日（土）に地元盛り上げ隊が催事**をするそうです。・・・今年あなたはどこの桜で花見しますか？

作柄は昨年並み



3月5日（木）、日置町の八幡宮で「管粥神事」が開催されました。毎年旧暦の1月15日に実施される神事で市の文化財に指定されています。午前7時より作柄を占う行事が開始され今年は昨年並みと占われました。昨年愛西市特産の蓮根は夏の台風直撃により不作でしたが、去年の「管粥神事」で「下」と的中していたそうです、今年は「中」と占われました。

V G 4月定例会の予定

集合時間：4月19日（日）8時45分

集合場所：立田庁舎

内 容：研修バス旅行（近江八幡）

あいさいボランティアガイドの会 3月定例会 議事録

◆会議（3月15日（日）9～11時、於：愛西市文化会館、28名出席）

下記議題について話し合いました。

1) ボランティアガイドの平成27年度会員継続について

会員として継続意志のある方は、3月31日（火）までに参加可否をお知らせ下さい。

2) ボランティアガイドの4月定例会（19日（日））について

研修の事前予約が必要ですので参加可否、変更がありましたら事務局へご連絡下さい。

3) 4月4日（土）愛西市商工会主催の桜まつりについて

4) 担当ガイド分担について

5) 奥津神社の読みについて

6) 「新日本歩く道百選」への候補地（3頁・あいさいロード）提案について

7) ①佐屋・立田分科会

ガイド依頼があった時、各自専門箇所を持っていると良いが、地区毎のモデルコースに合わせて、各自研鑽を続ける。

②佐織・八開分科会

実際に街中でガイドを実施する場合、名所説明だけでなく観光客の交通安全などおもてなしできる体制を確認する。また、専門箇所やモデルコースについて意見交換しました。

8) 愛西市観光協会が関係する4・5月催事の案内

・ 4月 4日（土）愛西市商工会主催の桜まつり

（船頭平閘門（立田会場）、鵜戸川桜並木（八開会場））

・ 4月 6日（月）15:00～ FM ななみ

「きいてちょ！海部情報」出演

・ 4月11日（土）チューリップまつり（国営木曽三川公園）

・ 4月18日（土）芝桜まつり（弥富市）

・ 4月30日（木）全日本うまいもの祭（モリコロパーク）

・ 5月17日（日）信長生誕祭（愛西市勝幡小学校）

・ 5月28日（木）観光協会、ボランティアガイドの会 総会



あいさいロード

松本清張の代表的な小説に『点と線』がありますが、ここでは、松本清張の小説ではなく愛西市の観光地としての『点と線』について。愛西市の地図を見てみると、観光地・名所・旧跡といえば、勝幡城址、佐屋宿場町、船頭平閘門など挙げられるのですが、いずれも“点”であって“線”ではありません。点の観光地は巡るのが大変ですが、観光地が線になっていると巡り易いと思います。愛西市には興味深い“線”があります。それも二重線！です。

当地は広大な水郷地帯ですが、あちらこちらに少し高台（約6m）となった場所を細く道が続く不思議な風景があります。今では想像も出来ませんが、そこには、**ほんの百数十年前までは佐屋川・天王川という大河が流れており、高台はその堤防の跡**です。この堤防跡である**二重線**は愛西市の有望な観光資源と考えられます。この道（4頁参照）は、**愛西（あいさい）市を南北に貫き**、堤防上に続く古い民家には季節風を防ぐ生垣として**愛西市の樹であるマキ（槇）が植えられています**。また、道の周囲にある町々には、輪中地帯の代表的な建築様式である**水屋**が残っています。こここそ**愛妻さんと一緒に散策**していただきたい道です。ということで、愛西市観光協会ですぐに“あいさいロード”と名付けさせていただいていましたが、先月、日本商工会議所他が主催する「新日本歩く道紀行百選シリーズ」選定委員会へ「ふるさとの道」候補として愛西市を通して応募しました。

この道（メインルート）は、明治時代末期に廃川となった木曽川の支流である佐屋川などの堤防上に残る道です。江戸時代、尾張藩の財源となっていた木曽檜は、木曽川上流で切り出され、筏下りによって佐屋川を経由して名古屋城下へ運ばれました。途中にある鶉多須町、早尾町、森川町などの町々には史跡が散在しています。終点の佐屋（佐屋町）は江戸時代にあった佐屋街道の港町であり宿場町でした。

二重線はもう一つ（サブルート）あります、江戸時代に廃川となった天王川堤防上に残る道であり、戦国時代以前から続く街道の一部であり、織田信長の生誕地である勝幡城（勝幡町）から津島湊（津島市本町）、さらに佐屋へ歩いた道でした。

メインルートとサブルートとはV字につながり周遊することも可能です。メインルート（八開庁舎から佐屋駅まで）とサブルート（佐屋駅から勝幡駅まで）を歩いた場合の**総距離は32.0km、所要時間5時間40分**となります。なお、ほとんどの箇所道幅が狭くうねうねと湾曲していますので、車でのお出かけはご遠慮下さい。

起点（八開庁舎）や終点（名鉄の佐屋駅、勝幡駅）には、運行本数は少ない（1日3便）ですが、愛西市コミュニティバスの乗り場があります。起点の八開庁舎へは名鉄淵高駅などから便（4月現在、淵高駅発 8:38、11:18、14:58 八開庁舎まで所要11分、月～土曜運行、日祝運休、無料）があります。また、経由する集落にコンビニ、神社や寺などがあり休憩地として利用できます。

4月、ハイキングに心地良い季節となりました。この春は、“あいさいロード”を散策されてはいかがでしょうか？





起点：八開庁舎

メインルート（佐屋川）

サブルート（天王川）

あいさいロード＜説明は3頁参照＞

総距離 32.0km、所要時間 5 時間 40 分

旧佐屋川と旧天王川の堤防に続く散策道

八開庁舎起点 → 名鉄佐屋駅

名鉄佐屋駅 → 名鉄勝幡駅

八開庁舎へは、名鉄淵高駅などから

愛西市コミュニティバスを利用できます。

道標などはありません。